

自己評価結果公表シート

【法人理念】

「大慈愛心」親が子に抱くような慈しみ愛する心
大きな慈愛の心をもって皆様と向かい合います。

【保育理念】

「仏教」を基本理念とし、子ども一人一人を大切にし、保護者からも信頼され、地域に愛される園を目指します。

【保育目標】

「健やかな心」を育てるために

1. めぐみの心を持ち、命を尊重する子 《生命尊重》
2. 善悪を見極め、絶えず正しい方に進む子 《修善》
3. 自分の立場を考え、他と協調できる子 《協調》

【評価項目の達成状況】

No	評価項目	職員の自己評価ポイント平均 (3点満点)
1	社会福祉法人 三宝会の理念「大慈愛心」	2.46
2	園の保育理念「仏教（生命の尊重）（修善）（協調）」	2.31
3	様々な環境を考慮し、選択肢などを与え、子ども自ら考える機会を作り「子どもの主体性を育む環境づくり」。	2.30
4	子どもの生活、遊びを考慮し、「子どもが安心して過ごせる環境づくり」。	2.52
5	一斉保育と違い、ひとり一人丁寧に接していく「乳児保育担当制」。	2.67
6	「あそび」の中にすべての要素が詰まっていると考え、非認知能力の育成を最優先にしている。	2.59
7	「行事」は子どもが成長するために必要だが、年齢、発達にそぐわない過度な行事をおこなわない。	2.77
8	集団生活の中で一人ひとりを把握し、個性に応じた温かい保育をしている。	2.61
9	施設の設定備・環境は、教育・保育にふさわしい状態である。	2.41
10	クラスのおたよりは分かりやすく説明している。	2.43
11	おやこんぼ（ノーメディア）について理解している。	2.80
12	幼児期に育ててほしい10の姿について理解している。	2.35
13	幼保小の架け橋プログラム（アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム）について理解している。	2.09
14	気軽に相談できる雰囲気づくりを心掛けている。	2.33
15	保護者の要望や問い合わせに対して、園からの説明や対応は礼儀正しく対応できている。	2.48
16	担任・担当から長時間保育担当の職員に、園児についての連絡など引き継ぎができています。	2.59
17	子どもに対し、主体性を尊重し自己決定を促す態度で接している。	2.42
18	子どもに対し、ポジティブな態度で接している。	2.50
19	子どもに対し、客観的で公平な態度で接している。	2.73
20	子どもに対し、相手に合わせた応答的な態度で接している。	2.58
21	子どもに対し、自律的で主体的な態度で接している。	2.46

【給食・食育アンケートを通じての感想】

家では食べない物も園では食べる事もあるようで、家庭と連携をして色々な食材を食べられるようにすすめていきたいと感じた。

保護者の方々が園の給食を理解して下さっていて嬉しく思う。

開園当初に乳児だった園児が幼児になり食べられる物も増え今ではおかわり分が無くなると残念がる姿を見ると日々の積み重ねで給食に食べ慣れて美味しく食べてくれているんだな。と感じる。

家庭とは違う刺激を受けながら子どもたちは食事をしていると感じた。クラス内にマナー面で気になる子が数名いるが、家庭で手が行き届かない分、園で繰り返し伝えてその子が身につけられるようにしていきたい。

困っている事があったように、「よく噛まない」ことは園でも見られる。その背景にはとても空腹で一気に食べる、おかわりを早くしたいからという理由があると思う。朝から、「お腹が空いた」と声が聞こえることもあるので、忙しい朝ではあるが家庭での朝食の量や食材など食生活の見直しが必要かもしれない。また、咀嚼が低下することで発音に影響して行くと思うので、食事の際に、引き続き声掛けが必要だと思った。

行事食について『映える』ではなく、『意味の込めた物』という点も大切だと思い、自分自身が野菜の生長や行事食への理解をもっと深めて、子どもたちに伝えていくようにしたい。

卒業しても、あゆみ園の給食を覚えていてくれている感想もあり、給食の方向性は間違っていなかったと思った。園での給食を食べた事や、講話の内容など家庭での話題になっている事も、あゆみ園の給食と家庭のが繋がっているとも思えた。しかし、食事に気を付けることが「特にない」や「献立を見ない」など食に関心があまりない家庭もあると思った。食に興味を持つ保護者が増えるようにしていくための方法を考えていきたいと思った。

【保育活動アンケートを通じての感想】

毎日毎日その瞬間が、子どもにとって身につけ思い出になっていく。その手助けになっているのかと日々振り返り反省する姿勢を忘れないようにしたいと思います。いろいろな考えがある事を理解し、聞く耳と余裕ある心を持ち続けたいと思います。

様々な意見があり、保護者の思いが知れた。その中で、温かい意見もたくさんあり嬉しく思う。子どもにとってより良い保育とはなにか。引き続き考え行動していきたい。

送迎時に保護者の方に話をしていけるようにしなくてはいけないという思いがあるが、時間帯によっては難しくもどかしさを感じた。貴重なご意見を、もとに日頃の保育を振り返り今後へ対応できるようにしていきたい。

生活習慣や保育方針についての意見が多いように感じた。生活習慣に関しては保育者としてもきちんと、見ていく必要があると感じた。また保護者の方から「子どもたちが保育園を楽しみにしている」という声がたくさん書かれていた。今後も自分の行動を見直し、保育していきたいと感じた。

保護者に日中の遊びの様子を伝えたと、「安心した」という声を頂いたので、その様子を切り取るような撮影ができたらと最近感じた。連絡帳、口頭だけだと伝わりにくい部分を動画で伝えていく、という今の時代ならではの意識を大切にしたい。

園の保育、環境に好感をもってくくださる方が多く、日々努力してきたことが繋がって嬉しく思った。今後も子どもたちの為に、自身の学びを深め保育に活かしていきたい。

スマホを触ったり書類を書いたりという意見から、保護者の方はいろんな所をよく見ているなと思った。保護者の方に安心してもらえるよう一つ一つの行動に気を付けていきたい。

今年は新体制となり、行事では、新たな内容の活動や従来の活動と、変化があった年でした。その都度、行事の活動内容については、振り返りをしています。今回のアンケート回答も参考にし、話し合い改善していける所はしていきたいと思う。

保護者の見解はいろいろあり、方針をきちんと理解してもらう事が大切だと思った。また、こちらはそのようなつもりはなくても、声を掛けづらい雰囲気を感じる事もあるようなので、挨拶や顔の表情も重要だと思った。

たくさんの方が満足してくれていることに嬉しさを感じますが、一方でご意見をお持ちの保護者の方もいると思うのでそうした意見に寄り添いつつも園として大事にしていることは保護者の方に伝わるように発信していきたいと思いました。

【職員の自己評価をふりかえり】

昨年、一昨年と2年続けて全国保育士会が作成した『保育所・認定こども園等における人権擁護のためのセルフチェックリスト』を使用し、評価をしてみました。報道や研修等により職員の意識が高まっていると感じ、今回は例年の自己評価をおこないました。

ただ、自己評価はあくまで自己の振り返りです。自らの保育を振り返り、それをもとにさらに良い保育を目指していかなければなりません。保護者の方が幸せを感じない限り、子どもは幸せを感じられません。それは常に子どもたちのそばにいる職員も同じです。職員一人ひとりが幸せを感じながら、これからも皆様からの信頼を得て、今後も子どもたちのために丁寧な保育を心掛けていきたいと思っています。

園長 野中徹